

8. 河道特性

後志利別川は、北海道渡島半島のほぼ中央、檜山支庁の北部地域に位置し、その源を長万部岳（標高972m）に発し、峡谷を南西に縫流しながら今金町美利河にてピリカベツ川、チュウシベツ川を合流したのち住吉付近で流路をかえ、途中多くの支川を併せつつ今金市街地を経てせたな町 を流れ日本海に注ぐ流域面積720k m²、幹川流路延長80kmの一級河川である。

せたな町は、平成17年9月1日、大成町、瀬棚町、北檜山町の3町の合併により誕生。

■上流部（源流部～住吉付近）

源流部から住吉付近に至る上流部は、河床勾配が約1/200～1/500で、サクラマス、カワヤツメ等の産卵床がある。山際部には北限となるブナの自然林が残り、川沿いにはヤナギ類の群落が見られ、クマタカ、クマゲラ等が生息している。

■中流部（住吉付近～利別目名川合流点付近）

住吉付近から、利別目名川合流点付近に至る中流部では、河床勾配が約1/500～1/1,400となり、アユ、カワヤツメ等の産卵床がある。高水敷は低木のヤナギ類の群落やヨシ群落が分布し、今金町市街地では公園緑地整備がなされ、イベントや釣り等が行われているとともに、近年では環境教育の場としても利用されている。

■下流部（利別目名川合流点付近～河口）

利別目名川合流点付近から河口に至る下流部は、河床勾配が約1/1,400～1/3,000と緩く、低木のヤナギ群落やオオヨモギ群落等の草本群落が広がっており、ヒシクイ等の渡りの中継地となっているほか、オジロワシ、ミサゴ等の餌場となっている。

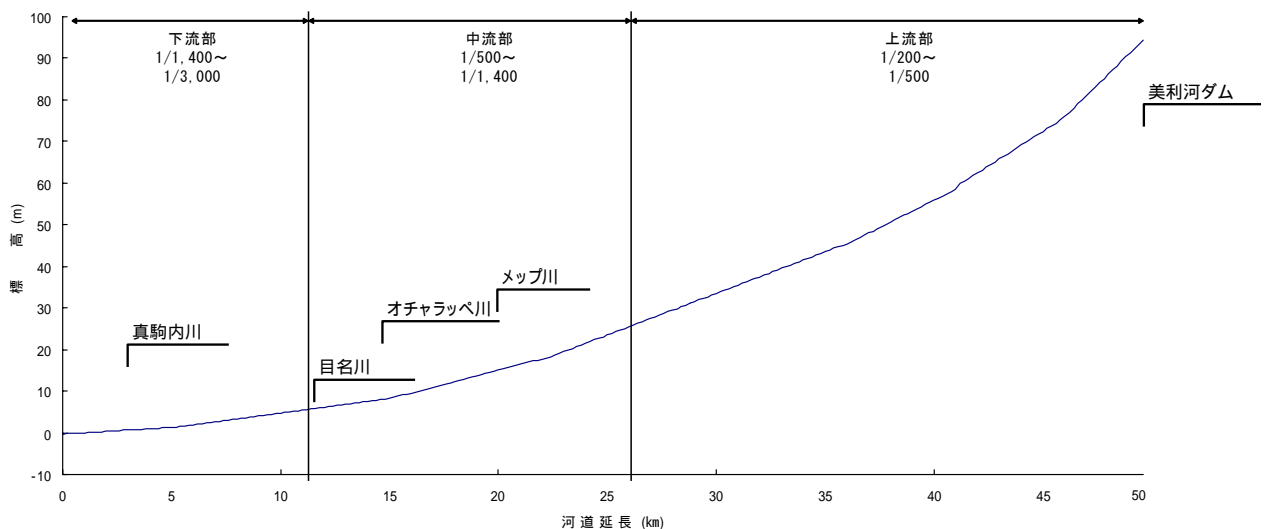


図8-1 後志利別川河床高縦断面図

（出典：北海道開発局資料）